

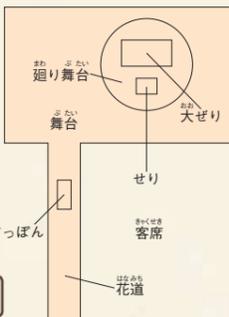
歌舞伎の舞台を見てみよう!

歌舞伎は、江戸時代から続いている日本独特の芝居。歌舞伎の舞台には、見に来た人がだれでも芝居を楽しむような、いろいろなしかけがある。

舞台のしくみとしかけ



舞台の平面図



宙乗り ゆうれいや動物の化身などの役の人が、ワイヤーにつるされて客席の上を飛ぶ。

大ぜり せりの大きなもので、建物などの大きな大道具ごと動かすことができる。

定式幕 黒、柿色(茶色)、もえぎ色(黄緑色)の3色のたてじまもようの幕。江戸時代には、幕府から許可を受けた芝居小屋であることを示した。

義太夫 舞台の上手(向かって右側)に、黒いすだれのかかった小屋。黒みす音楽が演奏される。

花道 舞台に向かって左側、役者が登場したり、退場したりする通路。

せり 舞台の床を切りぬいて、役者と大道具をのせて床を上下に動かす装置。

ちよぼ床 舞台の上手(向かって右側)の壁が回転して出てくる床。ふだんは壁の後ろで演奏している義太夫が、この上で演奏する。

仮花道 舞台に向かって右側につくられる花道。ふだんはなく、作品によって特別につくられる。

つりもの 舞台の背景になる大道具。いろいろな種類があり、作品に合わせて使われる。通常は舞台の上につられている。

大道具を組み立てる場所

客席

大道具をつくる場所

廻り舞台

背景 つりものが降ろされたところ。

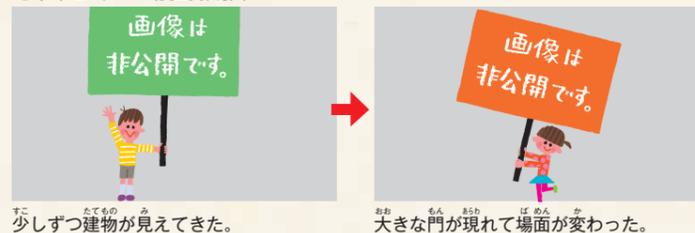


すっぽん 花道にあるせりのこと。江戸時代には、人がロープを引いて、床を動かしていた。すっぽんからは、ゆうれいや動物など、人間ではないものが登場する。

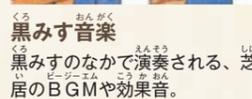


廻り舞台 舞台を丸く切りぬいて、役者と、背景や建物をのせたまま回る舞台。幕を閉めずに、場面を変えることができる。昔は人力で回っていた。

●大ぜりの場面転換



義太夫 物語を説明する人と、説明に合わせて三味線をひく人。



黒みす音楽 黒みすのなかで演奏される、芝居のBGMや効果音。

歌舞伎の楽しみ

歌舞伎には食事やおやつ、また、客席からは見えないけれど、いろいろな人が働いている楽屋裏など、芝居以外にも楽しみや見どころがある。

●食事

歌舞伎は長い芝居なので、話の区切りがいいところで、なん度か幕が引かれる。その幕と幕のあいだに、食事やおやつを食べるのも、歌舞伎の楽しみの1つだ。



目の前の舞台を見ながら、食事を楽んでいる女性(左)。舞台の横では、注文したそばが届いている。パンフレットを読んでいる女性もいる(下)。



江戸時代の「幕の内弁当」

幕と幕のあいだ(幕間)に食えることから、この名がついた。江戸時代には、軽く火であぶったおにぎりと、卵焼き、こんにやくとかんぴょうと焼き豆腐の煮物のおかずが一般的だったとされる。

●楽屋のようす

楽屋では、役者が食事をしたり、衣裳を着がえたり、打ち合わせをしたりしている。



芝居が終わったあと、料亭から料理を運んでもらって、ごうかな食事を楽しんでいる。



次の出番のための化粧をしている。



舞台の合間に打ち合わせをする、5代市川團十郎。



どんなごちそうを食べているの?

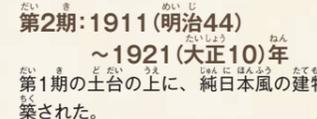
生まれ変わる歌舞伎座

1889(明治22)年、歌舞伎座は、歌舞伎専門の劇場としてつくられ、約125年のあいだに、4度の建てかえを行い、2013(平成25)年、新しい歌舞伎座が誕生した。

●歌舞伎座の歴史



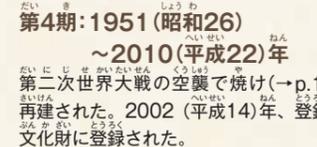
第1期: 1889(明治22) ~ 1911(明治44)年
日本一の大劇場を目指してつくられた。外観は西洋風の建物だった。



第2期: 1911(明治44) ~ 1921(大正10)年
第1期の土台の上に、純日本風の建物に改築された。



第3期: 1924(大正13) ~ 1945(昭和20)年
1923(大正12)年の関東大震災(→p.106)で工事が一時中断したが、鉄筋コンクリートを使った、耐震耐火設計だった。



第4期: 1951(昭和26) ~ 2010(平成22)年
第二次世界大戦の空襲で焼け(→p.120)、再建された。2002(平成14)年、登録有形文化財に登録された。



2013(平成25)年4月に新しく生まれ変わる、「第5期歌舞伎座完成予想図」(上)と、舞台から見た「劇場客席完成予想図」(下)。

